



一貫コース通信

13期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

6年間の学校生活の中でたくさん学んで自分の器を大きくしてほしいと願っております。

さて「なぜ学ぶのか」、私も子供のころそう思った。「いい大学に行くため」や「偏差値を上げるため」、そんな大人たちの答えにそのときは「そうか」と納得したかのように学んでいた。しかし、私は大人になった今でも学んでいる。入試問題を解いたり、授業の予習をしたりする。生徒が授業内容を理解し、問題が解けるようにするためには教員である私が解けなければならないと思うからだ。授業は仕事の根幹だから当然である。その一方、学びはそれ以外にもある。書物や新聞を読んで新しいことを知ること、ニュースを見ていて解らない語句などを調べることもそうであると思う。これらの学びは「いい大学に行くため」でもないし「偏差値を上げるため」でもない。私は知らないことを知ることが、なんだか楽しいのである。自分が豊かになり、さらに知らないことに会うことにワクワクすることもある。

本校は私自身にも学びを与えてくれている。生徒と共に行事を行う中で、山に登るのも、海を泳ぐのも、海外に行くのも初めての経験だった。山に登るための道具について学び、プールに通って平泳ぎを習い、簡単な英会話も学んだ。役に立ったかといわれると？だが、学んだことには違いない。茶道部の顧問になり、生徒と茶会に参加するために、薄茶のお点前を学び、着物の着付けも覚えた。千利休の唱えた「和敬清寂」というお茶の心に触れることもできた。カナダでの研修旅行やベトナムでの研修旅行で異文化にふれたとき、日本との違いを強く感じることもできたのは学びの結果に起因しているかもしれない。中学生と高校生の両方の授業をもつことによって、化学だけではなく、自分自身が生物や自然への興味をさらに深め、天気図を書いたり、星を眺めたり、地震速報の震源の深さやマグニチュードを気にするようになったりもした。年齢的に、山に登ったり、長距離を歩いたり、パワーいっぱいの中学生を相手に実験をするのは正直少々体力的に厳しくなっているが、その時その時で、たとえ同じ経験でも感じ方は変わっている。それはそれで学びなのだろうと思う。衰えていく体力を補う術を学んでいるのかもしれない(笑)。つまり学びは、私を豊かにしてくれるし、思考する力や俯瞰する力を与えてくれているように感じている。

本校の教育目標の中に、「自ら学び続ける姿勢を育てる」とあるが、学ぶ姿勢や意欲は学生時代ではなく、大人になっても、社会人になっても、リタイヤしても続くのだと思うし、自分もそうでありたいと思う。まあ、学生である限り学ぶことは当たり前だと思うが、「いい大学に入るため」とか「偏差値を上げるため」ではなく、自分の中が新しい知識や興味や、難題を解いた喜びなどで少しずつ豊かになっていく感覚を感じてくれたら、学ぶことが少しは苦でなくなるかもしれない。

たくさん学んでほしいのは新入生だけではない。卒業まで1年を切った、一貫コース8期生全員もそうである。進路実現を達成するためにも、卒業までの日々を、一緒に学び続けていきたいと思う。